

一般財団法人 全国自治協会建物災害共済業務規程

(昭和55年6月27日 制 定)

第1章 総 則

(通 則)

第1条 一般財団法人全国自治協会公有物件災害共済規約（以下「規約」という。）第3条第1号に掲げる建物災害共済事業の運営は、規約に定めるもののほか、この規程の定めるところにより行うものとする。

(他の法令の準用)

第2条 この規程に定めのない事項については、保険法の例によるものとする。

(定 義)

第3条 この規程中次に掲げる用語は、別段の定めがある場合を除きそれぞれ次の意味に用いる。

- 一 「共済の目的」とは、この共済事業に共済委託する建物、工作物ならびに建物内に収容されている動産（以下「建物および動産」という。）をいう。
- 二 「災害共済基金分担金基率」とは、共済基金分担金（以下「分担金」という。）の共済責任額に対する割合をいう。
- 三 「共済責任額」とは、共済の目的の共済委託契約額をいう。
- 四 「再調達価額」とは、共済の目的と同一の構造、質、用途、規模、型、能力のものを再建築又は再取得するに要する価額をいう。
- 五 「時価額」とは、共済の目的の再調達価額から経年の減価償却額を控除した価額をいう。

(共済委託団体の範囲)

第4条 この共済に共済委託できる者は、次の各号に掲げる団体とする。

- 一 町村
- 二 町村等で組織若しくは設置する地方自治法に規定する特別地方公共団体
- 三 系統町村会等
- 四 町村合併によって市制を施行する団体
- 五 市と合併した町村で引続き共済委託を希望する団体
- 六 共済委託期間中に市制を施行した団体
- 七 その他町村等関係団体で理事長が認めたもの

(共済の目的の範囲)

第5条 この共済に委託できる共済の目的は、次の各号に掲げるものとする。

- 一 前条の団体が所有する建物および動産
 - 二 前条の団体が使用、管理している建物および動産で災害により損害が生じた場合、直接団体が財産の損害を蒙るもの
2. 前項に規定する建物には、畳、建具その他の従物および電気、ガス、給排水、暖冷房、昇降設備、その他これに準ずる付属設備を含むものとする。
3. 次の各号に掲げるものは、共済の目的とすることはできない。
- 一 通貨、有価証券、印紙、切手、その他これらに準ずる物
 - 二 稿本、設計書、図案、証書、帳簿、その他これらに準ずる物
 - 三 家畜、家きん、植物、その他これらに準ずる物

第2章 損害のてん補

(てん補責任)

第6条 本会は、共済の目的について生じた次の各号に掲げる損害（消防又は避難に必要な処置によって生じた損害を含む。）を、この規程の定めるところによりてん補する。

- 一 火災による損害
 - 二 落雷による損害
 - 三 破裂又は爆発による損害
 - 四 建物又は工作物の外部からの物体の落下、飛来、衝突又は倒壊による損害。ただし、粉じん、煤煙、その他これらに類する物の落下若しくは飛来による損害および第8号による損害を除く
 - 五 車両の衝突又は接触による損害
 - 六 破壊行為によって生じた損害
 - 七 第1号から第6号および第8号から第10号又は第26条に定める損害に該当しない不測かつ突発的な事故によって建物に定着するガラスについて生じた破損損害
 - 八 風水害による損害
 - 九 雪害による損害
 - 十 土砂災害による損害
2. 前項第4号から第10号までに掲げる損害については、1回の災害によって生じた損害の額が1万円以上の場合に限りてん補する。

(損 害 額)

第7条 共済の目的に損害が生じた場合において本会がてん補すべき損害の額の算定は、損害が生じた時における共済の目的の再調達価額による。ただし、第16条第3項に規定する共済の目的については時価額による。

2. 前項の規定により損害の額を決定する場合において残存物があるときは、その価額を控除する。

(てん補額)

第8条 損害が発生した場合において、本会がてん補する金額（以下「共済金」という。）は、前条の規定による損害額とする。ただし、共済責任額をもって限度とする。

なお、共済責任額が罹災時における共済の目的の再調達価額を上回る場合は再調達価額をもって限度とする。

2. 前項の場合において、共済責任額が共済の目的の罹災時の再調達価額に達しないときは、共済責任額の再調達価額に対する割合により、共済金を決定する。

3. 第16条第3項の規定により共済基準額を時価額により共済委託契約を行なった場合は、前項の「再調達価額」を「時価額」と読み替えて共済金を算定する。

4. 第6条第1項第3号に掲げる損害についての共済金は、1回の事故により算定した額が2億円をこえるときは、2億円を限度とする。

5. 第6条第1項第8号に掲げる損害についての共済金は第1項から第3項までの規定により算定した額の100分の50を乗じて得た額とする。

(他の契約がある場合のてん補額)

第8条の2 共済の目的につき1の共済委託契約と同時に又は時を異にして締結された他の共済委託契約等（損害てん補額の算出に関し当該共済委託契約と約定を異にする契約を含む）がある場合において、それぞれの契約につき他の契約がないものとして算出したてん補責任額の合計額が損害額をこえるときは、当該共済委託契約によるてん補責任額の前記合計額に対する割合により、てん補額を決定する。

2. 前項の場合において、他の共済委託契約等に他の契約がないものとして算出したてん補責任額の全額を支払う旨の約定があるときで、かつ他の共済委託契約等から保険金又は共済金がすでに支払われている場合には、再調達価額を基準にして算出した損害額から他の共済委託契約等から支払われた保険金又は共済金を差し引いた残額を支払う。

ただし、当該共済委託契約でてん補すべき共済金を限度とする。

(免 責)

第9条 本会は、次の各号に掲げる事由によって生じた損害はこれをてん補しない。

- 一 共済委託団体の長若しくは業務執行機関又はこれらを補助する者（以下「委託団体の長」という。）の故意若しくは重大な過失又は法令違反によって生じた損害
- 二 共済の目的の紛失又は盗難による損害
- 三 共済の目的の自然の消耗若しくは劣化又は性質によるさび、かび、変質、変色、発酵、発熱、ひび割れ、肌落ちその他のこれらに類似の事由又はねずみ食い、虫食い等に起因する損害
- 四 共済の目的の擦傷、搔き傷、塗料のはがれ等の外観上の損傷又は汚損であって、共済の目的の機能に支障をきたさない損害
- 五 居住中の故意若しくは過失事故（火災、破裂又は爆発事故は除く。）により、居住者が占有する戸室のガラスについて生じた損害
- 六 原因の直接なると間接なるとを問わず核燃料物質（使用済燃料を含む。以下同じ。）若しくは核燃料物質によって汚染された物（原子核分裂生成物を含む。）の放射性、爆発性その他有害な特性作用又はこれらの特性に起因する事故によって生じた損害
- 七 原因の直接なると間接なるとを問わず戦争、外国の武力行使、革命、政権奪取、内乱、武装反乱その他これらに類似の事変又は暴動及びテロ行為によって生じた損害
- 八 原因の直接なると間接なるとを問わず地震、噴火又は津波によって生じた損害
（損害の調査）

第10条 共済の目的について損害が生じたときは、本会は、損害状況等について調査することができるものとし、委託団体の長は、これに協力しなければならない。

（第三者の行為による損害）

第11条 共済の目的につき生じた損害が第三者の行為によるものである場合において共済委託団体（以下「委託団体」という。）が第三者から同一の事由について損害賠償を受けたときは、本会はその価額の限度で共済金を支払う義務を免れる。

（共済金の支払請求）

第12条 委託団体が共済金を請求する場合は、建物災害共済金請求書、共済委託承認証および次に掲げる書類を添えて、速やかに都道府県町村会を経て本会に請求しなければならない。

このために必要な費用は当該団体の負担とする。

- 一 関係官署の罹災証明書
- 二 損害額明細書（支払請求書又は工事請負契約書）
- 三 共済の目的の罹災時における再調達価額見積書
- 四 当該共済の目的の配置図
- 五 罹災物件の平面図

六 罹災状況の写真

七 その他本会が必要とする書類

2. 本会は、当該請求に係る共済事故及びてん補損害額の確認をするために必要な期間を要する場合を除き、速やかに共済金を当該委託団体に支払うものとする。

3. 都道府県町村会において罹災現場の状況を確認し、かつ損害の額が推定された時は、当該団体の要請に基づきその推定共済金の80%を限度として仮払金を支払うことができるものとする。

(共済金支払後の共済委託契約)

第13条 共済金の支払額が1回の災害につき共済責任額の5分の4に相当する額をこえたときは、共済委託契約は、その共済金支払の原因となった災害の発生したときに終了するものとする。

2. 前項の場合を除き、本会が共済金を支払った場合においても、共済委託契約の共済責任額は、減額しないものとする。

(超過契約による分担金の返戻)

第14条 損害が発生し共済の目的の共済責任額が損害発生時の共済の目的の再調達価額を上回っている場合で、委託団体の善意であって、かつ重大な過失がないときは、再調達価額を上回っている部分についての共済責任額に対する分担金は返戻するものとする。

第3章 共済委託契約

(共済委託の手続)

第15条 本会に共済委託をしようとする団体は、共済の目的ごとにその名称、所在地、用途、構造、面積、共済基準額、共済加入率（共済に委託する割合）および共済責任額その他必要事項を情報処理機器の通信手段を媒介し、共済期間の開始する日より以前の日までに都道府県町村会に申込み、本会の承認を受けなければならない。

2. 本会は前項の申込みを受理したときは、申込みの内容を審査し、その申込を承認したときは、共済委託承認証を当該団体に送付するものとする。

3. 前項により承認した場合は、共済委託契約は、都道府県町村会において申込みを受理した日に遡及して契約が成立したものとし、共済委託承認証に記載された共済期間についててん補責任が生ずるものとする。

4. 第2項において本会が申込みを承認しないときは、その旨を当該団体に通知するものとする。

(共済基準額)

第16条 前条に掲げる共済基準額は、共済の目的の共済委託時の再調達価額に相当する額とする。

2. 前項に定める共済基準額は都道府県単位に標準的共済基準額を定めることができるものとする。

3. 共済の目的が次の各号の一に該当するときの共済基準額は前項の規定にかかわらず当該共済の目的の時価額に相当する額とする。

- 一 罹災した場合、復元（再調達）を要しない建物及び動産
- 二 継続的に使用されていない建物及び動産
- 三 仮設又は取りこわし予定の建物

(共済責任額)

第17条 第15条第1項に掲げる共済責任額は、前条の共済基準額に共済加入率（10%から100%までの5%きざみの19種の率）を乗じて得た額とする。ただし、動産のうち貴金属、宝石、模型、書画、骨とう、その他の美術品についての共済責任額は一点又は一組1億円を限度とする。

2. 損害の発生する危険度が著しく高い共済の目的について、委託団体の負担の衡平を損う虞があると認められるときは、本会は共済責任額を制限し、又は共済委託契約を承認しないことができる。

(共済期間)

第18条 共済の委託期間は、1年とする。ただし、本会がやむを得ない事由があると認めた場合は1年を超える期間、又は1年未満の期間を委託することができる。

2. 本会の共済責任は、共済委託承認証に記載された共済期間の初日の午後4時に始まり、最終日の午後4時に終わる。

3. 本会は、共済期間開始後であっても、分担金収納前に発生した損害はこれをてん補しない。ただし、第19条第4項により分担金を納付した場合は、この限りでない。

(分担金)

第19条 規約第4条に基づき、毎共済期間、本会に対し払込む分担金は第15条の規定により本会が承認した共済責任額に、別表「建物災害共済基金分担金基率表」中の基本基率を乗じて得た額とする。

2. 前条第1項ただし書の規定による分担金の額は、前項で算出した額に対する日割計算の方法によって算出した額とする。

3. 本会は第15条第2項により、共済申込を承認したときは、本会は共済委託承認証に基づく分担金を算定し、分担金額通知書を当該団体に送付するものとする。

4. 前項の分担金額通知書を受理した団体は、分担金額通知書記載の分担金を本会が指定する日までに都道府県町村会を經由して本会に納付しなければならない。

5. 前項の分担金の納付がなかったときは、第15条第3項による共済委託契約は成立しないものとする。

(共済の目的の調査)

第20条 本会は、委託団体の協力を得て、共済の目的について調査をすることができるものとする。

(共済委託契約の解約)

第21条 委託団体は、共済の目的が、第13条第1項に該当しない事由に因り滅失したとき、又は所有権、若しくは占有権が異動したときは、共済委託契約を解約するものとする。

2. 前項のほか解約の事由（第13条第1項に該当する場合を除く）が生じた場合は、共済委託契約を解約することができる。

3. 前2項に定める解約は、その事由が生じた日から30日以内に申し出なければならない。

4. 前項の場合において、本会はその事実のあった日を共済期間の終期とし、既に収納した分担金からその分担金の既経過期間に対する日割計算の方法によって算出した額を差引いた残額を返戻する。

(共済期間中の構造および用途等の変更)

第22条 共済の目的に構造又は用途等の変更により分担金の額に異動を生ずべき事由が発生したときは、30日以内にその旨を都道府県町村会を経由し本会に申し出なければならない。

2. 前項による変更が生じた場合は、本会は前項による変更後の分担金額を第19条第2項に準じ算定し、当該団体に通知するものとする。

3. 第1項に掲げるもののほか、共済委託承認証の記載事項に重要な変更を生ずべき事実が発生した時は、同項に準じ申し出なければならない。

第4章 委託団体の義務

(管理上の義務)

第23条 委託団体の長は、共済の目的に生ずる危険を未然に防止するよう努めなければならない。

(損害の速報)

第24条 共済の目的について、第6条に掲げる損害が生じた場合は、当該委託団体は、その損害の概要について都道府県町村会を経由し、本会に速報しなければならない。

(災害発生時の義務)

第25条 共済の目的に災害が発生したときは、委託団体の長は次の各号に掲げる事項を履行しなければならない。

- 一 損害の拡大防止、軽減に努めなければならない。
- 二 他人から損害の賠償を受けることができる場合においては、その権利の保全又は行使についての必要な手続きを行わなければならない。

第5章 災害見舞金

(災害見舞金の支払)

第26条 本会は、共済の目的について地震、噴火又はこれらに因る津波を直接又は間接の原因とする火災、損壊、埋没又は流失（以下「地震災害」という。）によって損害が生じたときは、災害見舞金を支払うものとする。

2. 災害見舞金は、1回の地震災害により生じた損害の額が3万円以上の場合に支払うものとする。

(災害見舞金の額)

第27条 本会が支払う災害見舞金の額は、第8条の規定を準用して算出した金額に100分の15を乗じて得た額とする。

2. 共済の目的が第6章に掲げる委託割合条件付実損共済特約による共済委託契約の場合は、前項「第8条」を「第34条」と読み替えるものとする。

(災害見舞金の支払限度額)

第28条 1年度内に生じた地震災害に因る損害に対して本会が支払う災害見舞金の総額（以下「見舞金総額」という。）は、前年度末現在における異常危険準備金及び運営準備積立金の額並びに基金積立金の額の合計額の100分の5に相当する額（以下「支払限度額」という。）を限度とする。

2. 1年度内に生じた地震災害に因る損害に対して見舞金総額が前項の支払限度額を超えることとなる場合の災害見舞金の額は、前条の規定により算定した額に見舞金総額に対する支払限度額の割合を乗じて得た額とする。

(災害見舞金の支払時期)

第28条の2 災害見舞金は、地震災害を受けた日の属する年度の翌年度に支払うものとする。

(災害見舞金の仮払い)

第28条の3 本会は、前条の規定にかかわらず、地震災害を受けた団体の申請に基づき、第27条の規定により算定した災害見舞金の額の80%を限度として仮払金を支払うことができる。

2. 前項の仮払金は、第27条の規定により算定した災害見舞金の額が10万円以上の場合に支払うものとする。

3. 第1項の仮払金の限度額は、2,000万円とする。

4. 第27条の規定により算定した災害見舞金の額と仮払金の額との差額の支払い時期は、前条の規定を準用する。

5. 仮払金の支払いを受けた団体は、当該仮払金の額が第28条第2項の規定により算定した額を超えるときは、その超える金額を返還するものとする。

6. 1年度内に生じた地震災害に因る損害が著しく甚大で見舞金総額が支払限度額を超えると推定される場合は、仮払金の支払いを制限することができる。

(災害見舞金の請求)

第29条 災害見舞金を請求しようとするときは、災害見舞金請求書及び共済委託承認証に第12条第1項第2号から第7号に掲げる書類を添え、速やかに都道府県町村会を經由して、本会に提出しなければならない。

第6章 委託割合条件付実損共済特約

(委託割合条件付実損共済特約)

第30条 委託団体は、共済の目的のうち、耐火構造の建物（住宅物件を除く。）ならびにこれに附属する設備、装置および据付機械については、委託割合条件付実損共済特約（以下「実損特約」という。）による共済委託契約をすることができる。

2. 実損特約による共済委託をしようとするときは、申込書に第31条に掲げる「実損特約委託割合」及び別表第5に掲げる「実損係数」を明記しなければならない。

(実損特約委託割合)

第31条 この特約における共済基準額に対する実損特約委託割合（以下「委託割合」という。）は、次のとおりとする。

共済の目的 の共済基準 額に対する 委託割合	% 30	% 40	% 50	% 60	% 70	% 80
---------------------------------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

(実損特約の共済責任額)

第32条 この特約における共済責任額は、共済の目的の共済基準額に対し、前条に掲げる委託割合を乗じた額とする。

(実損特約の分担金)

第33条 この特約における分担金は、前条の共済責任額に別表「建物災害共済基金分担金基率表」中の実損特約特別基率を乗じて算定した額とする。

(実損特約の共済金の額)

第34条 この特約に係る共済の目的に損害が生じた場合、共済責任額が損害発生時における共済の目的の再調達価額に第31条に掲げる委託割合を乗じて得た額を下らない場合は、共済責任額を限度として、損害額を共済金として支払う。

2. 共済責任額が損害発生時における共済の目的の再調達価額に第31条に掲げる委託割合を乗じた額に満たない場合には、その額に対する共済責任額の割合により共済責任額を限度として共済金を支払う。

第7章 異議の申立て

(異議の申立て)

第35条 共済金の支払いに関し、不服のある委託団体は、理事長に対し、異議の申立てをすることができる。

2. 前項の異議の申立ては、共済金の額を知った日から30日以内に書面をもって行わなければならない。
3. 第1項の規定による異議の申立てがあったときは、理事長は速やかに理事会に諮って、審査を行ない、その結果を30日以内に委託団体に通知しなければならない。

第8章 雑 則

(消滅時効)

第36条 委託団体の共済金を請求する権利、分担金の返還を請求する権利は、3年間行わないときは時効によって消滅する。

2. 前項の委託団体の共済金を請求する権利の消滅時効の起算日は、共済金支払いの対象となる災害が生じた日とする。

(質入等の制限)

第37条 共済金の支払を請求する権利は、本会が承認した場合を除き、質入れ又は譲渡することができない。

(理事長への委任)

第38条 この規程の施行に関し、必要な事項は理事長が定める。

附 則

(施行期日)

1. この規程は昭和55年7月1日から施行する。

(他の規程の廃止)

2. 豊全国自治協会災害共済事業実損共済規程（昭和36年10月1日施行）、ガラス破損危険担保特約共済規程（昭和54年10月1日施行）、災害見舞金規程（昭和39年9月1日施行）は、この規程の施行の日からこれを廃止する。

附 則

この規程の一部改正は昭和58年4月1日から施行し、同日以後の日に共済期間の開始するものからこれを適用する。

附 則

この規程の一部改正は昭和59年4月1日から施行し、同日以後の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は昭和61年4月1日から施行し、同日以後の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は昭和63年10月1日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は平成2年4月1日から施行し、同日以後の日に共済期間の開始するものからこれを適用する。

附 則

この規程の一部改正は平成3年4月1日から施行する。ただし、施行日前に発生した損害については改正前の規程を適用する。

附 則

この規程の一部改正は平成7年4月1日から施行し、同日以後の日に共済期間の開始するものからこれを適用する。

附 則

この規程の一部改正は平成9年4月1日から施行し、同日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は、平成10年4月1日から施行し、同日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は、平成11年4月1日から施行し、同日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は、平成12年4月1日から施行し、同日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は、平成13年4月1日から施行し、同日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は、平成15年4月1日から施行する。ただし、改正後の第26条及び第28条から第28条の3までの規定は、施行の日以後に共済期間が開始するものから適用し、同日前に共済期間が開始しているものについては、なお従前の例による。

附 則

この規程の一部改正は平成16年4月1日から施行し、同日以後の日に共済期間が開始するものからこれを適用する。

附 則

この規程の一部改正は平成17年4月1日から施行し、同日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は平成17年9月15日から施行し、平成17年10月1日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は平成19年1月30日から施行する。ただし、当分の間、従前による共済委託申込みができるものとする。

附 則

この規程の一部改正は、平成22年5月1日から施行する。ただし、改正後の第36条の規定は、平成22年4月1日以後の日に共済期間が開始するものから適用する。

附 則

この規程の一部改正は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。

ただし、第12条の改正規定、第15条の改正規定、第19条の改正規定、第22条の改正規定、第24条の改正規定、第29条の改正規定は、平成25年4月1日から施行し、改定後の第28条第1項の規定は、平成24年4月1日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この規定の一部改正は平成29年4月1日から施行し、同日以後の日に共済期間の開始するものからこれを適用する。

別 表

建物災害共済基金分担金基率表

第1 基 率 区 分

1. 基率は、基本基率及び特別基率とする。
2. 基本基率は、普通物件基率と住宅物件基率に区分する。
3. 特別基率は、実損特約特別基率とする。

第2 建物の構造区分

建物の構造を次の3種に区分する。

1. 木 造……………2・3の構造に該当しない建物
2. 簡 防……………簡易防火構造の建物
3. 耐 火……………耐火構造の建物

第3 適 用 基 率

1. 基本基率は、共済の目的の建物の構造及び所在都道府県別に第4 基本基率表を適用するものとする。
共済の目的が動産である場合は、その収容している建物の基率を適用する。
2. 普通物件基率は、住宅物件基率を適用されない建物・動産に適用する。
3. 住宅物件基率は、人の住居のみに使用されている建物（寮を除く）、付属物及び当該建物に収容されている動産に適用する。

第4 基本基率表

この基本基率表に掲げる基率は、共済期間1年、共済責任額1,000円に対するもの。

都道府県	普通物件			住宅物件		
	木造	簡防	耐火	木造	簡防	耐火
	円	円	円	円	円	円
北海道	1.198	1.090	0.214	0.38	0.33	0.13
青森県	1.198	1.090	0.214			
岩手県	1.293	1.090	0.189			
宮城県	1.293	1.090	0.189			
秋田県	1.330	1.093	0.190			
山形県	1.293	1.090	0.189			
福島県	1.330	1.093	0.190			
茨城県	1.110	0.868	0.150	0.38	0.33	0.13
栃木県	1.110	0.868	0.150			
群馬県	1.110	0.868	0.150			
埼玉県	1.110	0.868	0.150			
千葉県	1.110	0.868	0.150			
東京都	1.110	0.868	0.160			
神奈川県	1.110	0.868	0.150			
山梨県	1.110	0.868	0.150			
新潟県	1.293	1.093	0.224	0.38	0.33	0.13
富山県	1.198	0.990	0.189			
石川県	1.411	0.990	0.224			
福井県	1.198	0.990	0.189			
長野県	1.198	0.990	0.142			
岐阜県	1.090	0.854	0.142	0.38	0.33	0.13
静岡県	1.090	0.854	0.142			
愛知県	1.090	0.854	0.142			
三重県	1.293	1.018	0.167			
滋賀県	1.140	0.903	0.143	0.38	0.33	0.13
京都府	1.090	0.854	0.142			
大阪府	1.090	0.854	0.142			
兵庫県	1.293	1.018	0.171			
奈良県	1.293	1.018	0.167			
和歌山県	1.293	1.018	0.167			
鳥取県	1.330	1.140	0.181	0.38	0.33	0.13
島根県	1.330	1.093	0.171			
岡山県	1.090	0.854	0.142			
広島県	1.090	0.854	0.142			
山口県	1.090	0.854	0.142			
徳島県	1.173	0.914	0.171	0.38	0.33	0.13
香川県	1.090	0.854	0.142			
愛媛県	1.090	0.854	0.142			
高知県	1.173	0.998	0.168			
福岡県	1.090	0.854	0.142	0.38	0.33	0.13
佐賀県	1.225	0.954	0.158			
長崎県	1.330	1.045	0.171			
熊本県	1.240	0.977	0.158			
大分県	1.330	1.045	0.162			
宮崎県	1.267	1.001	0.160			
鹿児島県	1.411	1.130	0.189			
沖縄県	1.225	0.954	0.184			

第5 特別基率

実損特約特別基率

第30条に規定する実損特約の特別基率は、第4 基本基率表に掲げる基率に、次表に掲げる係数を乗じて得たものとする。

共済基準額に対する委託割合	30%	40%	50%	60%	70%	80%
実損係数	2.4	2.0	1.7	1.5	1.35	1.2

一般財団法人 全国自治協会建物災害共済業務規程施行細則

(趣 旨)

第1条 この施行細則は、一般財団法人全国自治協会建物災害共済業務規程（以下「規程」という。）に基づく事務処理に必要な事項を定める。

(共済委託団体の範囲)

第2条 規程第4条第1号の「町村」は、地方自治法第1条の3第2項に定める普通地方公共団体のうちの町村をいう。

2. 規程第4条第2号の「町村等で組織若しくは設置する地方自治法に規定する特別地方公共団体」は、町村等で組織若しくは設置する団体のほか旧町村団体等で組織若しくは設置し引き続き共済委託されている地方自治法第1条の3第3項に掲げられる地方公共団体の組合等を含み、構成団体に町村が入っていない特別地方公共団体で、すでに共済委託団体ではなくなった団体や新たに加入を希望する構成団体に町村が入っていない特別地方公共団体は該当しない。

3. 規程第4条第3号の「系統町村会等」は、全国町村会並びに都道府県町村会等をいう。

4. 規程第4条第4号の「町村合併によって市制を施行する団体」は、複数の町村が合併し市制を施行する団体をいい、市制の施行後に共済委託団体でなくなった場合は、共済委託団体にならない。

5. 規程第4条第5号の「市と合併した町村で引き続き共済委託を希望する団体」は、合併後も引き続き共済委託する旧町村をいう。

6. 規程第4条第6号の「共済委託期間中に市制を施行した団体」は、市制の施行後に共済委託団体でなくなった市は該当しない。

7. 規程第4条第7号の「その他町村等関係団体で理事長が認めたもの」は、町村行政に密接な関わりあいを持ち運営に町村が参画し、当該町村の出資割合が50%以上の地方公社等で理事長が認めたものをいう。

(共済の目的の範囲)

第3条 規程第5条第1項第1号に定める動産とは、建物内に収容されている動産をいい、什器、備品類の外建物と一体と見なすことの出来ない据付機械装置の類を含むものとする。ただし、消耗品類は除く。

2. 規程第5条第1項第2号に定める使用、管理している建物および動産とは、第三者の所有に属する建物および動産について、その保存維持の管理権を取得し、これを使用し、損害が生じ

た場合直接当該団体がその損害を負担する事を約して借用しているものをいう。

(てん補責任)

第4条 規程第6条第1項第1号に定める火災による損害とは、人の意図に反して発生若しくは拡大し、又は放火により発生した消火の必要がある燃焼現象であって、これを消火するため消火施設又はこれと同程度の効果のあるものの利用を必要とする燃焼現象によって生じる共済の目的が被る損害をいう。

2. 規程第6条第1項第2号に定める落雷による損害とは、共済の目的に直接落雷によって生じる共済の目的の破損、炭化、溶融等の損害と共済の目的近くの落雷によって生じる異常電流の作用で共済の目的が被る損害をいう。

3. 規程第6条第1項第3号に定める破裂又は爆発による損害とは、気体又は蒸気の急激な膨張を伴う破裂によって生じた自爆損害（共済の目的自体の破裂・爆発によって生じた損害）及び被爆損害（共済の目的の周囲の物件の破裂・爆発により共済の目的に生じた損害）をいう。

なお、水の凍結による水管、水道管の破裂の損害については、気体又は蒸気の急激な膨張を伴わないため、該当しない。

4. 規程第6条第1項第4号に定める建物又は工作物の外部からの物体の落下、飛来、衝突又は倒壊による損害は、飛石、自然風化による落石、枯木の倒壊等によって共済の目的が被る損害をいい、航空機の墜落、接触又は航空機からの物体の落下も含むものとする。

5. 規程第6条第1項第5号に定める車両とは、道路運送車両法に定める自動車、原動機付自転車及び軽車両をいい、積載物による損害も車両の衝突、接触による損害に含むものとする。

6. 規程第6条第1項第6号に定める破壊行為によって生じた損害とは、共済の目的に損害を与える目的で破壊またはこれに類似の行為により損害を受けた場合をいう。

7. 規程第6条第1項第7号に定める建物に定着するガラスとは、建物の一部である壁、屋根、間仕切り等に定着している窓ガラス、ドアガラス、壁面ガラス及びこれらに類するガラスをいう。

8. 規程第6条第1項第8号に定める風水害による損害は、台風、せん風、突風、暴風等の風災、台風、暴風雨、豪雨、融雪によって生じた溢水、洪水、高潮等の水災によって共済の目的が被る損害をいう。

なお、自然の消耗、劣化、ひび割れ、管理上の瑕疵を含む共済の目的の瑕疵による建物又は開口部の直接破損を伴わない雨又は砂塵の吹き込みによって生じた損害は、該当しない。

9. 規程第6条第1項第9号に定める雪害による損害とは、豪雪、雪崩、降雪、降ひょう（融雪による溢水、洪水を除く。）等によって共済の目的が被る損害をいう。

なお、自然の消耗、劣化、ひび割れ、管理上の瑕疵を含む共済の目的の瑕疵による建物又は

開口部の直接破損を伴わない雪又はひょうの吹き込みによって生じた損害は、該当しない。

10. 規程第6条第1項第10号に定める土砂災害による損害とは、豪雨等の自然現象によって発生する崖崩れ、山崩れ、土石流、地すべり、巨岩の落下によって共済の目的が被る損害をいう。

ただし、土地の陥没・隆起および河川の氾濫・高潮等に起因する土砂の流出または流入による損害は、該当しない。

(共済金の請求)

第5条 規程第12条に定める共済金の請求は、別表第5号様式「建物災害共済罹災状況調書兼共済金請求書」によるものとする。

なお、同条各号に定める添付書類は次のとおりとする。

一 同条第1号に掲げる関係官署の罹災証明書は、火災等については消防署、破壊行為については被害届出の警察受付受理書等、その他の罹災の場合は、所管官署の発行するもので罹災が確認出来るものとする。

二 同条第3号に掲げる再調達価額の見積書は建築士の資格又は同程度の専門的技術を有するものの作成したものとする。

三 同条第7号に掲げるその他本会が必要とする書類は、共済金算定上必要とするものとする。

四 同条第3項に定める、共済金の仮払（以下「緊急送金」という。）については、その推定共済金の額が100万円以上の場合に限るものとする。

なお、当該委託団体において、緊急送金を要する場合は、文書等をもってその推定共済金の額ならびに緊急送金要請額を支部を経由して本会に要請するものとする。

2. 規程第6章に定める委託割合条件付実損共済特約に伴う共済金の請求手続は、前項の規定を準用するものとする。

(共済委託の手続)

第6条 規程第15条第1項に定める申込みの手続きは、本会が指定する情報処理機器上の契約情報入力画面（以下「契約情報入力画面」という。）に必要事項を入力後、別表第1号様式「申込総括書」を情報処理機器から出力し、支部に送付するものとする。

なお、共済委託する共済の目的が動産の場合は、収容動産名、数量、共済基準額をあわせて申し込むものとする。

2. 既に共済委託をしている共済の目的を引続き共済委託する場合の申込み総括書は、別表第1-2号様式「継続総括書」によるものとする。

3. 規程第15条第3項に定める受理は、別表第1号様式「申込総括書」、別表第1-2号様式「継続総括書」を都道府県町村会が受理したときとする。

(共済基金分担金の納付)

第7条 規程第19条第3項に定める分担金額通知書は、別表第4号様式「建物災害共済基金分担金額通知書兼請求書」(以下「分担金額通知書」という。)とする。

2. 規程第19条第4項に定める、本会が指定する方法、および指定する日は、分担金額通知書に記載するものとする。

3. 規程第19条第4項により分担金を納付するときは、別表第4-2号様式「建物災害共済基金分担金送付書」を都道府県町村会を經由して本会に提出しなければならないものとする。

(共済委託承認証)

第8条 規程第15条第2項に定める共済委託承認証は、別表第2号様式「建物災害共済委託申込承認証」(以下「承認証」という。)によるものとする。

2. 前項の承認証に添付する収容動産明細は、別表第2-2号様式「収容動産明細書(承認)」とする。

(標準的共済基準額)

第9条 規程第16条第2項に定める都道府県単位に定める標準的共済基準額は、本会が提示する全国平均共済基準額を参考に都道府県町村会ごとに設定するものとし、これを本会に報告し了承を得るものとする。

(共済委託の制限)

第10条 規程第17条第2項に定める共済責任額を制限し、又は共済委託契約を承認しないことができるとは、規程第23条に定める管理上の義務を果たしていない著しく管理状態の悪い建物、工作物ならびに建物内に収容されている動産のほか、同一物件に同一罹災が過去1年間に5回以上あった場合、又は同一物件に同一罹災が複数回あり過去1年間の共済金支払総額が1千万円を超える場合で、かつ委託団体が有効な改善策を講じなかった場合に適用することができるものとする。

(長期・短期の共済委託)

第11条 規程第18条第1項に定める共済委託期間の1年を超える期間、または1年未満の期間で共済委託する場合の止むを得ない事由とは、次の各号に掲げるものをいう。

- 一 既共済委託契約の共済期間満了日と新たに委託する共済期間満了日を統一する場合
- 二 仮設又は建築中(直営工事のみ)の建物若しくは臨時使用のもので一定期間のみ共済委託する必要がある場合

(分担金計算の端数処理)

第12条 規程第19条に定める分担金額の計算において、分担金の額に円未満の端数が生じた場合は円未満の額は切捨てるものとする。

2. 閏年の1年間の分担金の額の計算は、平年と同じ取扱いとするものとする。

(共済委託契約の解約)

第13条 規程第21条第1項および第2項に定める共済委託契約の解約手続は、契約情報入力画面に必要事項を入力後、別表第1号様式「申込総括書」を情報処理機器から出力し、都道府県町村会に送付するものとする。

2. 委託団体から前項の申込総括書の提出があったときの「分担金」の精算は規程第21条第4項によるものとする。

(共済委託契約の内容変更)

第14条 規程第22条第1項および第3項に定める用途等の変更の申し出は、契約情報入力画面に必要事項を入力後、別表第1号様式「申込総括書」を情報処理機器から出力し、都道府県町村会に送付するものとする。

(罹災速報)

第15条 規程第24条に定める速報すべき損害の概要は次のとおりとする。

- 一 団体名
- 二 承認証番号および施設名
- 三 共済期間
- 四 罹災日時および罹災原因
- 五 罹災物件の契約内容（物件番号、用途、構造、棟数、面積、共済責任額）および罹災状況
(罹災面積、共済金見込額)

2. 規程第26条に定める地震災害が発生したときは、前項の規定に準じ速報するものとする。

(端数切捨て)

第16条 規程第28条第1項に定める支払限度額に1,000円未満の端数があるときは、これを切捨てるものとする。

2. 規程第28条第2項により算定した額に円未満の端数があるときは、これを切捨てるものとする。

(災害見舞金の計算期間)

第17条 規程第28条に定める1年度は、毎年4月1日から翌年3月31日とする。

(仮払金)

第18条 規程第28条の3第1項に定める地震を受けた団体の申請は、別表第6号様式「建物災害共済被害状況調書兼災害見舞金請求書」(以下「見舞金請求書」という。)によるものとする。

2. 規程第28条の3第1項に定める仮払金の額に1,000円未満の端数があるときは、これを切捨てるものとする。

3. 規程第28条の3第6項に定める制限は、仮払金を支払わないことをいう。

(見舞金の請求)

第19条 規程第29条に定める災害見舞金の請求手続は、「見舞金請求書」によるものとする。

(質権設定)

第20条 規程第37条に定める質権設定承認申請の手続は、別表第7号様式「質権設定承認請求書」によるものとする。

2. 前項に掲げる質権設定承認については別表第8号様式「質権設定に依る裏書事項」を発行するものとする。

附 則

1. この施行細則は、昭和55年10月1日から施行する。
2. 諸様式は、この施行細則の規定にかかわらず当分の間旧様式を使用することができるものとする。

附 則

この施行細則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成3年4月1日から施行する。ただし、当分の間旧様式を使用することができるものとする。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この施行細則は、平成14年11月1日から施行し、平成14年12月1日以降の日に共済期間の開始するものから適用する。ただし、当分の間旧様式を使用することができるものとする。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成15年4月1日から施行する。ただし、改正後の第13条から第16条までの規定は、施行の日以後に共済期間が開始するものから適用し、同日前に共済期間が開始しているものについては、なお従前の例による。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成16年4月1日から施行する。ただし、当分の間旧様式を使

用することができるものとする。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成17年9月15日から施行し、平成17年10月1日以降の日に損害を受けたものから適用する。ただし、当分の間旧様式を使用することができる。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成19年1月30日から施行する。ただし、当分の間、旧様式を使用することができるものとする。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成22年5月1日から施行し、同日以降の日に損害を受けたものから適用する。

附 則

この施行細則の一部改正は、平成28年1月28日から施行する。

別表（第4条、第5条、第6条、第7条、第12条、第13条、第17条、第18条関係）

様式番号	名 称
第1号	申込総括書
第1－2号	継続総括書
第2号	建物災害共済委託申込承認証
第2－2号	収容動産明細書（承認）
第3号	建物災害共済委託契約内容変更承認裏書
第4号	建物災害共済基金分担金額通知書兼請求書
第4－2号	建物災害共済基金分担金送付書
第5号	建物災害共済罹災状況調書兼共済金請求書
第6号	建物災害共済被害状況調書兼災害見舞金請求書
第7号	質権設定承認請求書
第8号	質権設定に依る裏書事項

別表第 1 号様式

(第 1 号様式)

申込総括書

一般財団法人 全国自治協会理事長殿

建物災害共済業務規程を了承し、以下のとおり委託申込をします。 (委託団体名)
(団 体 長) 印

総括書番号	都道府県	団体番号	団体 枝番	団 体 名 (枝 番 名)

整理 番号	承認証番号	施 設 名	新規 物件	追加 物件	変更 物件	解約 物件	分担金 (円)	解約返戻金 (円)
		計						
			差引分担金(円)					

別表第1-2号様式

1 / 1

(第1-2号様式)

年 月 分

継続総括書

一般財団法人 全国自治協会理事長殿

建物災害共済業務規程を了承し、以下のとおり委託申込をします。
 (委託団体名) 印
 (団 体 長)

総括書番号	都道府県	団体番号	団体 枝番	団 体 名 (枝 番 名)

整理 番号	承認証番号	施 設 名	継続 物件	追加 物件	変更 物件	非継続 物件	分担金(円)
計							

別表第2号様式

頁

建物災害共済委託申込承認証

団体用

長殿

(第2号様式)

承認証番号	都道府県	団体番号	団体枝番	整理番号	分類	施設名	所在地	共済期間(西暦)16時まで

物件番号	共済期間(西暦)16時から	物件名	用途番号	構造	棟数	面積㎡	積算	共済基準額千円	未加入率%	実損	共済責任額千円	基準率円	実損係数	分担金円
合計														

共済委託申込を上記のとおり承認いたします。
一般財団法人 全国自治協会理事 会長

別表第2-2号様式

(第2-2号様式)

収容動産明細書 (承認)

団体用

頁

(年 月分)

長殿

承認証番号	都道府県	団体番号	整理番号	物件番号

明細番号	品名	数量	共済基準額 千円	明細番号	品名	数量	共済基準額 千円
計							

明細番号	品名	数量	共済基準額 千円	明細番号	品名	数量	共済基準額 千円
計							

一般財団法人 全国自治協会

別表第3号様式

(第3号様式)

建物災害共済委託契約内容変更承認裏書

団 体 用

頁

長殿

承認証番号	都道府県	団体番号	団体番号	整理番号	分類	施設名	施設所在地	共済期間開始(西暦)16時まで
<input type="text"/>		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>				

物件番号	変更日 (西暦)16時から	用途番号	構造	棟数	面積	積込	共済基準額 千円	実損 千円	共済責任額 千円	基率 円	実損 係数	上段:旧分相金 下段:新分相金	上段:旧分相金 下段:新分相金	上段:経過分相金 下段:経過分相金
合 計														

一般財団法人 全国自治協会理事 理事長

(注) 1. 上段は、変更前の契約内容で、下段は変更後の内容です。
 2. 過不足分相金は、変更前の契約内容と変更後の契約内容により、次の計算方法により算出したものです。

過不足分相金 = 変更後契約の分相金 - (変更前契約の分相金 - 変更前契約の既経過分相金)

マイナス表示は過剰額です。
 上記のとおり承認裏書いたしましたので、発行済の建物災害共済委託申込承認証に添付し保管して下さい。

別表第4号様式

建物災害共済基金分担保金額通知書兼請求書

団 体 用

(第4号様式)

頁

(月分)

長 殿

一般財団法人 全国自治協会理事 長

下記のとおり建物災害共済基金分担保金額をご通知いたします。
なお、分担保の内訳は別添承認証並びに承認裏書のとおりです。

都道府県	団体番号	団体校番

承認証番号	整理番号	物件数	分担保金額	解約返戻金	承認証番号	整理番号	物件数	分担保金額	解約返戻金	承認証番号	整理番号	物件数	分担保金額	解約返戻金	備考
合 計	A 分担保	B 解約返戻金				差引分担保 (A-B)									

納付期限 年 月 日

この通知書は、承認証と同時に発行しておりますので、分担保は、納付期限までに都道府県町村会指定口座にお振込み願います。

別表第4-2号様式

建物災害共済基金分担金送付書

(第4-2号様式)

平成 年 月 日

(月分)

一般財団法人 全国自治協会理事長 殿

都道府県	団体番号	団体枝番

下記の建物災害共済基金分担金を送金いたします。
(委託団体)
(団体長)

承認証番号	整理番号	物件数	分担金	解約返戻金	承認証番号	整理番号	物件数	分担金	解約返戻金	承認証番号	整理番号	物件数	分担金	解約返戻金	備考
合計										A 分担金		B 解約返戻金		差引分担金 (A-B)	

都道府県 町村会 事務処理			入	金	年	月	日	確 認 日 印
			年	月	日			

通信欄
 <個人情報利用目的> 個人情報、共済金の支払のほか、共済委託契約の締結、維持管理、共済事業の充実の目的に限って利用いたします。

別表第5号様式

(第5号様式)

※ 決 支 出 命 令 裁	常務理事	次 長	部 長	課 長	参 事	主 事	係	出 納
------------------------------	------	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----

※ 受付日	平成 年 月 日
受付番号	
出納年月日	平成 年 月 日
支払番号	

建物災害共済罹災状況調書兼共済金請求書

一般財団法人 全国自治協会理事長 殿

都道府県名	都道 府県
-------	----------

団体名	団体長名	印
-----	------	---

次のとおり罹災しましたので共済金を請求します。

施設番号	都道府県	団体番号	団体枝番	承認証番号	整理番号	罹災原因
施設名	施設所在地		町	村		1. 火災 2. 落雷 3. 破裂・爆発 4. 外部からの物体の落下・飛来・衝突・倒壊 5. 車両の衝突、接触 6. 破壊行為 7. ガラス破損 8. 風水害 9. 雪害 10. 土砂災害
罹災日時	西暦 年 月 日 時	共 済 期 間	西暦 年 月 日	西暦 年 月 日		

罹
災
状
況

共 済 金 請 求 欄	物件 番号	契 約 内 容					再調達価額見積額 (千円) ③	罹 災 内 容		共済金請求額 (円) ④
		物 件 名	実損 契約	構造	棟数	面 積 (㎡)		共済責任額 (千円) ①	面 積 (㎡)	
-										
-										
-										
-										
-										
		合 計								

[注] 共済金算出方法 ②× $\frac{①}{③}$ = ④ (風水害 ②× $\frac{①}{③}$) × $\frac{50}{100}$ = ④)

※
査
定
欄

※欄には記入しないで下さい。

※ 共 済 金 決 定 額
, , 円

町都 村道 会府 欄県	確認欄	担当者	意 見 欄
	都道府県町村会受付日		
平成 年 月 日			

〈個人情報の利用目的〉 個人情報は、共済金等の支払いのほか、共済委託契約の締結、維持管理、共済事業の充実に限って利用いたします。

別表第6号様式

(第6号様式)

※決支出命令	常務理事	次長	部長	課長	参事	主事	係	出納

※受付日	平成	年	月	日
受付番号				
出納年月日	平成	年	月	日
支払番号				

建物災害共済被害状況調書兼災害見舞金請求書

一般財団法人 全国自治協会理事長 殿

都道府県名		都道府県
-------	--	------

団体名	
-----	--

団体長名		印
------	--	---

下記のとおり被害を受けましたので災害見舞金を請求します。

施設番号	都道府県	団体番号	団体枝番	承認証番号	整理番号	災害の種類
施設名				施設所在地	町村	1.地震(地震名)
被害日時	西暦	年	月	日	時	共済期間
						西暦
						年
						月
						日
						日
						2.噴火
						3.津波

被害状況						

見舞金請求欄	物件番号	契約内容					再調達価額見償額 (千円) ㊸	被害内容		見舞金請求額 (円) ㊹	
		物件名	実損契約	構造	棟数	面積 (㎡)		共済責任額 (千円) ㊿	面積 (㎡)		損害額 (円) ㊻
		合計									

[注] 見舞金算出方法 (㊻ × ㊿ / ㊸) × 15 / 100 = ㊹

※査定欄		
	※欄には記入しないで下さい。	
	※ 災害見舞金査定額	
	, , 円	

町都 村道 会府 欄県	確認欄	担当者	意見欄
			都道府県町村会受付日
			平成 年 月 日

〈個人情報の利用目的〉 個人情報は、共済金等の支払いのほか、共済委託契約の締結、維持管理、共済事業の充実の目的に限り利用いたします。

別表第7号様式

(第7号様式)

質権設定承認請求書

昭和
平成 年 月 日付 に基づく

金 円也の債権の担保として貴会建物災害共済委託契約に基づく、
下記の共済契約の共済金請求権に質権を設定いたしましたのでご承認下さい。

したがって共済の目的が損害を受け貴会が共済金を支払われるときは、損害時の
債務額を限度として、債務が弁済期にあると否とを問わず、直接質権者にお支払い
願いたく、別紙共済委託承認証を添え双方連署をもって請求いたします。

平成 年 月 日

債務者 共済委託者兼 質権設定者 ⑩

債権者 兼質権者 ⑩

共済委託物件番号	(都道府県) ー (団体) ー (承認証番号) (物件番号)
共済の目的の所在地	
共済の目的の名称	
共 済 金 額	円 共済期間 自 平成 年 月 日午後四時 至 平成 年 月 日午後四時

上記請求のとおり承認いたしました。

平成 年 月 日

一般財団法人 全国自治協会理事長

〈個人情報の利用目的〉

質権設定に関する個人情報は、質権設定・承認及び変更などの質権事務、質権を設定する共済委託契約の履行、共済金支払の判断・手続き等のために業務上必要とする範囲で取得・利用します。また、これらの業務のために、質権を設定する共済委託契約に関する個人情報とともに、質権者等に提供を行うことがあります。

別表第8号様式

(第8号様式)

質権設定に依る裏書事項

本承認証（共済委託物件番号第 ー ー 号
共済責任額 円也）記載の共済の目的中物件番号 ー ー は質権
設定を承認したので罹災の場合の共済金は下記の通り給付する。

給 付 内	債務者（共済 委託者兼質権 設定者）に対 する給付	物件番号	共済の目的の名称	共済責任額	
				円	
				円	
				円	
				円	
		合 計			円
		訳 書	債権者兼質権 者に対する給 付	物件番号	共済の目的の名称
				円	
				円	
				円	
				円	
合 計				円	

平成 年 月 日

一般財団法人 全国自治協会理事長

